

令和7年度 学校総合評価

6 今年度の重点課題に対する総合評価

昨年度創立130周年を迎え、今年度は系統の異なる4学科が、伝統を引き継ぎながら融合し、新しい南砺福野高校を創りだそうと学科間の連携活動を始めた。また、1学年普通科・国際科で行っている地域課題学習において、南砺市や地域企業が抱える課題の解決策について提案するという実践的な取り組みを進め、本校教育目標の実現に向けた取り組みを行うことができた。

重点項目のうち、「学習指導（教科指導）」、「学校生活（健康管理）」、「進路支援（進路指導）」、「特別活動（読書指導）」、「その他（保護者や地域との連携）」の5つは、評価をBとした。今年度の入学生から学習者用端末の個人購入が始まり、今まで以上に生徒が1人1台タブレットPCを持つことを効果的に生かす学習活動の展開が求められている。7月に教員向けICT研修会を行い、10月の互見授業では生徒の一人一台タブレットの活用をテーマに、各教科で授業を実施し、タブレット活用の可能性を模索することができた。また、文化展での生徒保健委員会による健康に関するポスターの展示、クイズ形式で啓発する活動を企画し、生徒の健康・安全に関する意識の高揚を図ることができた。保護者の方々にPTA活動や学校についての関心の高揚を図り、相互の連携向上を図る手段として、7月に本校のInstagramを開設し、フォロワー数を伸ばすことができた。

その他の重点項目はいずれも評価をCとした。「特別活動（特別活動指導）」については、学校行事や大会結果を中心にホームページでの情報提供を行ってきたが、学校行事のみを掲載するにとどまっており、今後はホームルーム活動などの情報提供の検討していきたい。また、9割以上の生徒がSNS利用についてルールを守るなど、自律的意識を持ちつつ利用している様子が見受けられる。今後は各クラスで生徒たちが取り決めたルールを保護者にも周知し、連携して習慣の改善に取り組むことも必要である。

今年度の取り組みの結果を総合的に考察することで、次年度の取り組みの更なる向上につなげていきたい。

7 今年度の重点次年度へ向けての課題と方策

普通科、国際科、農業環境科、福祉科の4学科からなる大規模校である本校の特色を今後も活かし、探究活動や課題研究、部活動、特別活動等を通して主体的・意欲的そして協働的に取り組む生徒の育成を目指したい。

学校の課題解決には、生徒と教職員が丸一丸となって取り組むとともに、保護者や地域の理解と協力が不可欠である。これまで地域に根ざした教育活動を行ってきた本校として、今後も教育諸活動や生徒の活躍の様子などの情報共有を図りつつ、広く世界へ発信することを見据えた取り組みにも力を入れていきたい。

8 学校アクションプラン

令和7年度 南砺福野高校アクションプラン - 1 -

重点項目	学習指導（教科指導）	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> 互見授業による教員の指導力向上（協働的な学びの促進に向けて） 教育クラウドやタブレットPCの各種学習活動への活用の研究 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 4学科が併設している本校の利点を生かし、他学科や他教科の授業を参観することで教員の授業の幅や質を高めていくことが必要である。教員自身が指導法を見直し、主体的・対話的で深い学びとなるよう絶えず工夫していくことが肝要である。 生徒の学力層が幅広くなってきているため、一斉指導に困難を感じるという教員も多い。また、学習意欲が低い生徒や、義務教育段階の学習内容が定着していない生徒も多い。個々の生徒の実態を把握し、生徒が意欲を持って主体的に学ぶよう、授業改善、指導の工夫をしていく必要がある。 生徒が1人1台タブレットPCを持つことを効果的に生かす学習活動について研究を行う必要がある。生徒たちはスマートフォンの操作には長けているが、社会で必要とされるPC操作の技術を習得していないと言われている。そのため、授業や探究活動、課外活動などさまざまな場面でタブレットPCを活用することで生徒のリテラシーを高めていくことが望まれると考える。 	
達成目標	① 互見授業および校内外の研修会等への、教員一人あたりの参加回数	② PCリテラシーが入学時より向上したと回答する生徒の割合
	① 4回以上	② 70%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 授業公開期間を学期ごとに設定し、同じ教科だけでなく他教科・他学科の授業も参観しやすい環境を整える。 若手教員研修を企画し、先輩教諭の助言を継続して行う。 ICT、新たな学び関連の研修会等の情報をグループウェアや連絡会で共有し、参加を呼びかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業や探究活動、課外活動などさまざまな場面でタブレットPCを活用し、生徒に文書作成・表計算・プレゼンテーションソフトなど、基本的なPC機能を使用させる。 教育クラウドやICT機器の授業や学習指導への活用方法について各学年や各教科で研究し、タブレットPCの活用を推進する。
達成度	教員一人あたりの参加回数平均 約4回	R8 入学生 1月調査で 向上したと答えた割合の平均 約36%
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 6月10月に授業公開期間を設定した。 7月に教員向けICT研修会を行った。 11月に若手教員研修会を行った。 10月授業公開では生徒の一人一台タブレットの活用をテーマに、各教科に授業をしていただいた。タブレット活用の可能性を模索することができた。 	Q.「中学時より上達したか・よく使うか」で、はいと答えた割合。 ①キーボードでの文字入力 50.6% ②インターネットでの検索 60.8% ③プレゼンテーションソフト使用 24.1% ④ワープロソフトでの文書作成 26.5% ⑤表計算ソフトでの作業 18.1%
評価	B	目標①：タブレットの活用方法について考えるよい機会となった。 目標②：キーボードでの文字入力为上達した生徒が多かったのは望ましい結果であるが、ワープロ・表計算についてはそれほど伸びていなかった。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> 生徒のAI利用が増えている中、課題や宿題等の評価も難しくなっているため、教員側の研修を充実させてはどうか。 生徒のPCリテラシーの向上は、PCに触れる機会が多ければ多いほど早く上達すると思われるので、授業や特別活動において日常的に実際に使用する場面を増やしていくことが効果的だあると思う。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> 目標②については「どの授業で、またはどの活動で、力がついたと感じるか」等も調査すれば、より意義ある回答が得られると考える。調査項目も模索したい。 社会で使用する機会の多いワープロソフト、表計算ソフトのリテラシー向上を図りたい。学校生活のどのような場面で活用できるかについて、考えていきたい。 	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：やや不十分だった D：不十分だった)

令和7年度 南砺福野高校アクションプラン - 2 -

重点項目	学校生活（生徒指導・健康管理）	
重点課題	福高生として誇りを持ち、主体的に考え、判断し行動する態度の育成	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的なスマートフォンやインターネットの長時間使用による生活リズムの乱れや、SNS の不適切使用による人間関係のトラブルの例がみられる。 ・心身の不調により、遅刻や欠席を繰り返す生徒がみられる。 ・感染症予防への継続的な具体的対策として、学習環境を整理し、健康管理をするなど自己管理能力を育成する必要がある。 	
達成目標	①自律週間中の学習に無関係なスマートフォンやインターネットの平均利用時間が1日2時間以内	生徒に健康・安全・感染症予防に関する情報を提供する回数
	「達成できた」と答える生徒が1・2年生で50%以上、3年生で60%以上	年間10回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ①自律を促す啓発活動を行うとともに、実施後の振り返りと実態調査を行う。 ②教育相談部や学年、教科担当との連携を密にするとともに、生徒の自発的な成長に繋げるよう生徒支援に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の健康・安全に関する意識の高揚を図るため保健厚生委員会と連携して講演会等を企画する。 ・「保健だより」等で、生徒が健康問題に適切に対処するための情報を適宜発信する。
達成度	達成率1・2年生33%、3年生50.9%と目標を達成できなかった。	<ul style="list-style-type: none"> ① 各種講演会の実施や文化展での展示 ② 保健だより発刊や校内放送による感染症予防のための周知情報提供10回 達成度100%
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ①スマートフォン・ネットの過度な利用による弊害について、ビデオや印刷物を使って学んだ。1年生には外部講師を招き講習を実施した。 ①ホームルーム活動を通してクラスルールを決め、1・2学年については10月に再度ルールの見直しを行った。 ①1・2学期の期末考査期間を中心に「ネット利用自律週間」を設定し、啓発のための印刷物を教室や廊下に掲示した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心の健康に関する講演会、性に関する講演会、薬物乱用防止の講演会を実施 ・生徒保健委員会による保健だよりの発刊（6回） ・心身の不調をケアするため、SCと連携してアドバイスを行った。 ・感染症予防に関する手洗い啓発のためのポスター掲示 ・文化展での生徒保健委員会による健康に関するポスターの展示、クイズ形式で啓発 ・2学期より、インフルエンザ予防啓発を促す校内放送を昼食前に実施
評価	生徒指導部 C	利用時間は目標達成できなかった反面、9割弱の生徒がクラスルールを概ね守り、守れなかった生徒も自己分析できた。また9割以上の生徒がSNS利用についてルールを守るなど、自律的意識を持ちつつ利用している様子が見受けられた。
	保健厚生部 B	<ul style="list-style-type: none"> ・心、性、薬物乱用防止の講演会を実施し、正しい知識を得る機会を設定することができた。 ・健康に関する内容を文化展、保健だより両方で取り上げた。 ・手洗いおよび換気の励行等、感染対策を取りながら通常の行事を実施できるよう働きかけを行った。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒のスマートフォンの利用ルールに関しては、学校から保護者に具体的な事例や提案を提示し家庭の協力が得られるようにしてはどうか。 ・現在のクラスルールでは多くの生徒が達成できていると感じているようなので、もう少しハードルをあげて生徒たち自身が考えられるようにすればよいのではないかと。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスルールを保護者にも周知し、連携して習慣の改善に取り組む。 ・クラスルールを見直し自律性を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の行動がクラスや学年の学習環境や学習意欲につながる自己肯定感をもたせ、健康的で前向きな高校生活を送れるようサポートする必要がある。 ・欠席者が多く、心の健康に関する啓蒙を行う必要がある。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：やや不十分だった D：不十分だった)

令和7年度 南砺福野高校アクションプラン - 3 -

重点項目	進路支援（進路指導）	
重点課題	<p>「総合的な探究の時間」や進学講話・進路セミナー等行事の充実（普・国・農・福）</p> <p>生徒への情報提供や面接の充実（普・国・農・福）</p> <p>検定資格の取得に向けた意識の向上と合格者数の増加（国・農）</p> <p>介護福祉士国家資格取得（福）</p>	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・多様化していく生徒に対して、指導の個別化が必要である。 ・広く多くの情報の中から自己の将来像を描いてほしいが、生徒個人で新しい情報を探すことは困難なこともあるため、より効果的な情報提供や面接指導が必要である。 ・国際科では、「読む・聞く・話す・書く」の4技能をバランスよく伸ばし、活用できるコミュニケーション能力を育成するために、授業内でプレゼンテーションやスピーチなどの表現活動も積極的に取り入れている。また、総合的な英語力を測定するために、毎年全員 GTEC を受験し、さらに、多くの生徒が英検に挑戦している。 ・農業環境科では、学科全員での日本農業技術検定と危険物取扱者の合格、土木類型全員での測量士補と造園施工管理技術検定の合格を目指して学習し、さらに各自で資格・検定の合格に挑戦し、学科で全員でのアグリマイスターやとやまの高校生マイスターの取得を目標に取り組んでいる。 ・福祉科生徒の進路は多岐にわたるが、「介護福祉士国家試験合格」を目標に掲げる生徒が多く、生徒の目標を実現させるための継続的な指導・支援が必要である。また、学習習慣の確立ができていない生徒がいるため、資格取得に向けての取り組みを通して、主体的かつ生涯学び続ける姿勢や学び方を身につけさせる必要がある。 	
達成目標	<p>① 以下の観点での生徒の満足度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生は生徒の学力向上を目指して努力している。 ・進路についての面接がよく行われている。 ・進路に関する情報が豊富である。 ・進学講話・学年集会は進路を考える上で役立っている。 ・「総合的な探究の時間」は進路を考える上で役立っている。 	<p>② 卒業時に英検2級相当以上の英語力を身につけている生徒の割合（国際科）</p> <p>③ 卒業時まで3つ以上の全国に通用する各種資格・検定に合格した生徒の割合（農業環境科）</p> <p>④ 介護福祉士国家試験の合格率（福祉科）</p>
	<p>① 80%以上</p>	<p>② 50%以上（国際科）</p> <p>③ 100%（農業環境科）</p> <p>④ 100%（福祉科）</p>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・進路セミナーや大学・企業研修を効果的に活用する。 ・進路に関する集会や面接を充実させる。また、「総合的な探究の学習」の時間を効果的に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合実習、外部講師の授業、インターンシップ、職業講話などを活用し、進路意識の向上を図る。 ・目標を持って資格取得試験に向かうよう、指導法を工夫し学習習慣を身につけさせる。 ・関連科目の担当者同士の連絡を密にし、資格取得の意義を生徒に理解させ、意欲を引き出すとともに学習内容や生徒の理解度等の把握に努め、学習時期に適切な課題内容及び課題量を提示して取り組ませる。 ・長期休業中等の学習計画や目標を考えさせ、達成できるよう支援する。
達成度	<p>① 進路に関するアンケートより</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5項目の平均 (86.2%) ・学力向上に向けての先生の努力度 (96.9%) ・進路についての面談回数満足度 (83.9%) ・進路についての情報の豊かさ (82.5%) ・進路における進路講話の貢献度 (89.8%) ・進路における探究の時間の貢献度 (77.7%) 	<p>②国際科で英検2級相当(GTEC960)以上の英語力を身につけている生徒は、クラス全体の26名中10名(38%)で目標に及ばなかった。</p> <p>③卒業までに3つ以上の資格・検定を取得・合格した生徒の割合は、100%であった。</p> <p>④介護福祉士国家試験合格率は未定（合格発表は3月16日）</p>

<p>具体的な 取組状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や卒業生、砺波青年会議所の方を講師に招き1年進路セミナー14講座を開講し、一人2講座を受講した。 ・1学年普通科・国際科の生徒対象に、南砺市バスツアーを実施した。 ・2学年普通科・国際科の生徒対象に、富山県地域産業発見探訪事業で企業訪問を実施した。 ・各学年とも保護者会・懇談会を実施し、進路のしおり等を懇談会で活用した。 ・金沢大学と富山大学の大学出張講座に、2学年の生徒が参加した。 ・外部講師の進学講話を各学年1回以上実施した。 	<p>②英検などの資格試験への積極的なチャレンジを促し、英検1次合格者に対しては個別に2次試験の面接練習を実施した。</p> <p>③入学時より農業環境科の生徒に資格取得への意識を高く持たせるとともに、アグリマイスターやとやま高校生マイスターの取得を目標に持たせ、意欲的に各種の資格や検定、専門科目の学習に向き合えるように取り組んだ。</p> <p>④年間を通して、学習時期に適した課題内容及び課題量を明確に提示し、確実に取り組めるように工夫した。模擬試験の結果や生徒の要望等から、生徒の習熟度や苦手分野を把握し、その部分を中心に扱う授業を展開した。また、習熟度に応じて、放課後に個別指導等を行った。</p>
<p>評価</p>	<p style="text-align: center;">B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1学年の南砺市バスツアーにより、南砺市の企業に関する生徒の興味関心が増加した。 ・1学年の進路セミナーでは、職業を含めた進路への知識・関心を深めた。 ・2学年の企業訪問では、大学卒業後に富山に戻り活躍できる企業について知る事ができた。 ・大学出張講座により、大学の研究内容を知ることにつながり、進路選択に役立った。 ・進路に関する資料は、生徒・保護者の進路に関する知識を深めることに貢献できた。 ・外部講師の進学講話を各学年1回実施することで、進路に関する知識を深め、学習意欲向上につながった。 	
<p>学校関係者の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国際科の達成目標である英検2級相当以上の英語力が達成できていないのが気になる。英語力の向上以外で、外国人とともに行うボランティア活動や海外と業務を行っている企業での研修などの体験も取り入れていくのはどうか。 	
<p>次年度へ 向けての 課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進路行事について、生徒の実態に合わせた効果的なものになるように工夫する。 ・個々の生徒の進路実現に向け、その目的に合わせた自発的な学習の機会が与えられる仕組み作りを行う。家庭学習の重要性を意識させ、生徒の学習意欲や理解度等を把握し、効果的な学習指導を考える。 ・英検、GTEC対策にあたる演習(速読練習等)を、ふだんの授業の中でも定期的に取り入れていき、ペアワークによるスピーキング練習も充実させていく。 ・資格取得の学習を通して、知識や技術を身につけさせるだけでなく、生徒自身に合った学習スタイルを確立させ、それらを生徒一人ひとりが今後の進路や生活等において活かすことができるという実感を持たせられるような指導の在り方について考える。 	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：やや不十分だった D：不十分だった)

令和7年度 南砺福野高校アクションプラン - 4 -

重点項目	特別活動（特別活動指導・読書指導）	
重点課題	広報活動の充実と利便性の向上	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・全校生徒の約 90%が部活動に所属している。また、県レベルを超える大会等で活躍する部活動も多い。 ・学科、生徒会、委員会、部活動を中心に、多様な活動を校内外で行っている。その活動や頑張りが、外部に知られていない場合もある。 ・生徒に読ませたい本や購入したい本が多数あるが、閲覧室は新しい本を置く余裕がなく、書庫も空きスペースがない状況で、蔵書の除籍・廃棄を進める必要がある。 ・読書を活発にするためには、まず多くの生徒が図書室に来ることが先決である。授業等の調べ学習に利用してほしいが、Wi-Fi で接続できないため利用をあきらめる生徒も多数存在する。 	
達成目標	① 生徒の活動を紹介するホームページの更新回数	① 情報発信 ② 蔵書の除籍・廃棄
	② 年間20回以上	① お便り（「啓明館だより」、「はばたき」、「啓明」）の発行 年14回 ② 図書原簿のデータ化の完成
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事やHRなどの様子を掲載する。 ・大会結果を掲載する。 ・部活動に協力してもらい、普段の活動や大会の様子を掲載する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新刊書等の情報が生徒に伝わりやすいように、お便り（印刷物）の発行に加えて、ポップ作成と掲示による視覚的な広報活動を進める。 ・効率的に蔵書の除籍・廃棄に取り組むために、図書原簿のデータ化を進め、廃棄する。 ・Wi-Fi 等の環境整備を図る。
達成度	75% 12月末現在15回	① お便りの発行 年14回（予定） ② 図書原簿のデータ化は、S55年度まで完成
具体的な取組状況	学校行事や大会結果を中心に掲載している。	<ul style="list-style-type: none"> ・お便りの発行は、予定通り14回になる予定である。 ・南砺市の図書館との連携事業で希望者対象の研修と、保育園等での読み聞かせを行った。 ・夏期休業中の生徒課題のポップは、生徒玄関付近に掲示した。 ・Wi-Fi が導入される予定である。
評価	特活部 C	・年間20回の目標のところ、12月末現在15回の更新であった。部活動ごとに独自で更新しており、特活部としては学校行事のみを掲載するにとどまったからである。
	図書部 B	<ul style="list-style-type: none"> ・南砺市との連携事業の研修が今年も実施されてよかった。 ・Wi-Fi が導入されれば、図書館で出来るが増える予定である。
学校関係者の意見	・設置されたWi-Fi環境を今後教育活動に有効に活用してほしい。	
次年度へ向けての課題	<p>特活部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームルーム活動など、学校行事以外の掲載を検討すること。 <p>図書部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書量アップのため、読書会や夏休みの課題の精選の必要がある。ただ生徒が学習の課題に追われ、朝も朝テスト等が入っている中難しい面がある。 	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:やや不十分だった D:不十分だった)

令和7年度 南砺福野高校アクションプラン - 5 -

重点項目	その他（保護者や地域との連携）	
重点課題	保護者と連携・協力のもと、開かれた学校づくり	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ P T A役員の方々と話し合い、P T A役員の負担感の軽減と、地域との連携も意識した、より意義のあるP T A活動の計画・実践について検討・模索していく必要がある。 ・ 広報誌やホームページなどの情報ツールなどを活用して、保護者の方々にP T A活動や学校についての関心の高揚を図り、相互の連携向上を図る必要がある。 ・ ホームページには更新されていないページもあり、関係部署への働きかけが必要である。 	
達成目標	①ホームページ等、情報発信ツールの情報更新や内容充実	②P T A活動を通じた保護者や地域の学校について関心の高揚と連携
	①各部署で1回以上ホームページ更新	②福高だよりの発行 7回 ③地域との連携を意識した取り組み
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページ更新に関わる職員に講習会を行い、各部署での更新が円滑に進むようにする。 ・ 定期的にホームページを確認し、更新を呼びかけ、ホームページでの情報提供や更新回数を向上させる。 ・ P T A便り「いわお」や福高だよりのホームページへの掲載を通じて情報を伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者が興味、関心を持てるよう内容を精査する。 ・ P T A役員や行事等の際に保護者から意見を集め、関心度を調べる。 ・ P T A活動に地域連携につながる要素を組み入れることを検討・模索する。 ・ P T A研修会で、魅力的な講師を招聘する。
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページ更新率 約95% ・ 新しい発信ツールとしてインスタグラムを開設。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福高だより発行回数 6回（1月末現在） ・ 今年度から新たに街頭交通指導の場所にJ R福野駅前を加え、あいさつを行った。
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページ右側の17カテゴリー中16が更新されている。複数回更新されているものが多い。 ・ 今年度7月開設のインスタグラムは、フォロワー数434人となり、目標としていた中学生フォロワーもついた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福高生のスマホ事情について、生徒と保護者にアンケートを実施し、その結果をもとにP T A役員と教員で座談会を行った。 ・ P T A役員の方の要望を受けて、P T A研修会で有名人財教育家・メンタルコーチの飯山暁朗氏を招き、全校生徒を交えた講演会を行い、大好評だった。
評価	B	<p>目標①：各部署の尽力もあり、本校の活動が適宜発信されたのではないかと考えている。インスタグラムでは若手教員が動画配信をこまめにしてくれ、本校の魅力発信ツールとして効果があったと考える。</p> <p>目標②：福高だより発行は予定通り保護者向けに発行発信している。地域との連携については生徒生活指導委員が行う街頭あいさつ運動の箇所を福野駅前に変えた。P T A役員数削減実施初年であるが、とくに問題なく活動できた。</p>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ SNS（インスタグラム）での情報発信は、学校の様子がよくわかり大変良い。 ・ 生徒たちのコミュニティ意識を高めるため、地域連携の一環として伝統芸能や地域ボランティア活動との連携も検討してみてはどうか。 	
次年度へ向けての課題	<p>目標①：普通科からの情報発信が他の3学科に比べると少ないので、次年度は普通科の取り組みについてももう少し発信を増やしたいと考えている。</p> <p>目標②：P T A関係者の負担を増やさない地域との連携活動の可能性、P T A研修会でのより保護者が求める講演テーマや実施形態、役員選考について考えたい。</p>	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：やや不十分だった D：不十分だった）